

火起こし（舞ざり式）



1 ねらい

- ・ 火の使用について、先人の知恵や苦勞を知り、火の起こる仕組みを学ばせる。
- ・ 火を起こす喜びを体感し、火の大切さやありがたさを理解させる。

2 所要時間 1.25 時間程度

3 活動人数 最大 68 人まで【管理棟下 20 人(最大 4 人×5 班)、食堂下ピロティ 48 人(最大 4 人×12 班)】

4 活動場所 食堂下ピロティ、管理棟下ピロティ
※焼き板や FDG1.25 時間と組み合わせて 2.5 時間で活動することもできます。
火起こしだけの場合は、残りの 1.25 時間は団体での活動を計画してください。

5 参加者の服装および準備物 長そで、長ズボン(夏も)、下靴、帽子、軍手

6 活動の流れ

| 活動の流れ(時間) | 活動内容 | 留意点 |
|-------------------|--|---|
| 1 全体説明 (10分) | ・活動についての流れの説明を聞く。 | |
| 2 用具の配布 (5分) | ・貸し出し用具の点検(数量・破損等)をする。 (火起こし器、火きり板、麻ひも、台紙、火ばさみ) | 先端部がきちんとセットされているか、火きり板に使える火きりうす(くぼみ)があるか確認させる。 |
| 3 火起こし体験 (1時間) | ・火起こしのデモンストレーションを見る。 ・麻ひもをほぐして、火口(ほくち)をつくる。 ・火きり板に火起こし器の先端を合わせ、ハンドルを上下させて軸を回転させる。 ・はじめはゆっくりと回転させ、煙が出始めたら速度を上げる。 ・火種が出来たら火口の上に乗せる。 ・火口を火ばさみで挟んで、細く長い息を吹きかける。 | ・火起こし器を回転させる時は、押す時に力を入れ、戻す時は反動を利用させる。 ・火きり板、火起こし器の先端は熱くなるのでさわらないよう注意する。 ・煙が出てからも火種ができるまで連続しておこなわせる。 |
| 4 片づけ | | |
| 5 まとめ | ・職員の点検を受ける。 ・まとめの話を聞く。 | ・数量、破損等の確認をさせる。 |

7 留意事項

帽子を着用し、やけどには十分注意する。